

令和6年9月4日

報道機関各位

青森県立美術館副館長

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 閉幕のお知らせ

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会は、2024年4月13日（土）から青森県内にある5つの美術館・アートセンターで「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」を開催し、対象展覧会へ30万人を超える総入場者を迎え、9月1日（日）をもって142日間の会期を終了しました。つきましては、本アートフェスで実施した内容などをまとめたプレスリリース vol.9を提供いたしますので、今後の取材の参考にしていただきますようお願い申し上げます。

記

1 添付資料

- ・AOMORI GOKAN アートフェス 2024【リリース Vol.9】

報道機関用提出資料（連絡先）	
担 当	AOMORI GOKAN アートフェス 2024 実行委員会 事務局（青森県立美術館内） 担当：蓼島、櫻庭
電話番号	017-783-3000
アドレス	bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
所属長	青森県立美術館 副館長 境谷 孝司



AOMORI GOKAN アートフェス 2024 「つらなりのはらっぱ」

30万人を超える総入場者を迎え、
142日間に及ぶ青森県初のアートフェスが閉幕しました



2024年9月1日 5館巡回展示 栗林隆《元気炉》最終巡回先 弘前れんが倉庫美術館にて Photo: 成田亮

- 公立の美術館・アートセンターが連携し、各館のキュレーターが協働でテーマや企画をつくる新しい形のアートフェス
- 開催地4市を中心に県外・県内の周遊を促進する、アートを起点にした青森県初のアートイベント
- 会期終了後も、「ラーニングプログラム」など、連携事業を継続的に実施

現代美術を楽しむ青森県内5つの美術館・アートセンター（青森県立美術館、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館）が開催したAOMORI GOKAN アートフェス 2024「つらなりのはらっぱ」は、対象展覧会へ30万人を超える（速報値）総入場者を迎え、9月1日(日)をもって142日間の会期を終了しました。

青森県で初の取り組みとなった本アートフェスは、「つらなりのはらっぱ」をテーマに、個性的な活動をしている各施設が、つらなりから新たな関係性が紡がれていくようにとの想いを込め、この地に根差して活動する各館のキュレーターが協働し、展覧会やプロジェクトなど、それぞれの館の特徴を活かした多様なプログラムを実施してきました。またアートを起点に、開催4市（青森市、弘前市、八戸市、十和田市）を中心に、青森県内各地域にある自然や食、建築などの文化発信を行い、周遊を促しました。結果、県外から本アートフェスをきっかけに、初めて青森県を訪れた方、県内でも地域をまたいだ来館者が多くみられました。

アートフェス終了後も、各館の特徴やポテンシャルを発揮しながら、ゆるやかな「つななり」を通し、5館による継続的な連携に取り組みます。参加作家をはじめ、ゲストアーティスト、イベントへの参加者、並びにご協賛企業・団体、フェスサポーター、多くの皆さまに御礼を申し上げます。

AOMORI GOKAN アートフェス 2024 の展示構成

1. メイン企画 共通テーマ「つらなりのはらっぱ」のもと各館で開催する展覧会
2. 共通企画 5館を巡回する共通作品の展示
3. 関連イベント 共通テーマから各館で開催される関連企画
4. 同時開催 本フェスの期間中に開催される他の展覧会

2024年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」について

「はらっぱ」と聞いて思い浮かべる風景は人それぞれ違うように、青森には「はらっぱ」にたとえられる、個性豊かな5つの現代美術を扱う館が揃っています。「はらっぱ」は目的をもって行くところではなく、訪れることでなにかに会い、なにかが起る、特別だけれど日常とも地続きの場所です。そこは、訪れては去っていく人間、動物、植物などの訪問者たちが関係する境界上に位置し、日々思い思いの活動が繰り返される場とも言えます。本テーマには、5つの美術館やアートセンターがまさに「はらっぱ」のように機能し、それぞれの個性的な活動のつらなりから新たな関係性が紡がれていくようにとの思いが込められています。

本アートフェスの特徴

■新しい文化芸術ネットワークの在り方を探る

本アートフェスではディレクターを置かず、5館の学芸員が集まって議論を重ね、コンセプトやテーマを練りあげていきました。これは新しい文化芸術ネットワークの在り方を探り、青森県の文化的多様性とその魅力を伝えていく試みとなりました。

■5館の個性を接続させることで浮かび上がる「つらなりのはらっぱ」というテーマ

5館は青森市、弘前市、八戸市、十和田市にそれぞれ点在しています。文化圏や都市機能の異なる地域で、5つの館もそれぞれ個性的な活動を行っています。プロジェクトによって各館がゆるやかにつながり、その効果を県全域に波及させていくことを目指した「芸術文化体験+観光」プロジェクトです。今年度のテーマ「つらなりのはらっぱ」のもと、5館の特徴を活かした展覧会、また共通企画として栗林隆《元気炉》が各館を巡回しました。

■子どもたちが楽しく、アートに触れられる5館共通の鑑賞ツール

アートフェスをより深く楽しむため、子どもや親子を対象とした鑑賞ツールを用意しました。5館に親しむための情報や作品鑑賞のコツなどアート体験の入口となるコンテンツのほか、各館の展示やプロジェクトに関するワークシートを制作しました。

■青森県内の多彩な魅力を5つの美術館、アートセンターを軸に体験する周遊プラン

本州最北端に位置し、三方を海に囲まれた青森県は地域により気候や風土が異なり多彩な伝統、自然、食文化に恵まれています。アートフェスでは、その魅力を再発見してもらうことを目的に、工芸、建築自然などをテーマに設定し、国内外、また県民や近隣の方にも新しいアートを通じた体験を提案しました。

メイン企画

*以下画像は全て Photo：小山田邦哉

○青森県立美術館

前期：4月13日（土）－6月23日（日）

「かさなりとまじわり」

後期：7月6日（土）－9月29日（日）

【参加作家】青木淳、井田大介、原口典之、吉田克朗、吉田槩子、大森裕美子、大森記詩、吉田有紀、青秀祐、Virtualion、吉田謙也、室谷心太郎、KOYA、糸虫、Nakaya、豊川茅、窪田梨絵、算用子綺香、宮野春香



青森県立美術館 外観

「かさなりとまじわり」 展示風景
(吉田有紀、青秀祐)

展示風景 井田大介 《Synoptes》

○青森公立大学 国際芸術センター青森

前期：4月13日（土）－6月30日（日）

後期：7月13日（土）－9月29日（日）

「currents / undercurrents -いま、めくるめく流れは出会って」

【参加作家】ジュマナ・エミル・アブード、青野文昭、岩根愛、是恒さくら、工藤省治、光岡幸一、中嶋幸治、澤田教一、鈴木正治、ロビン・ホワイト 【会場構成】山川陸

青森公立大学 国際芸術センター青森
外観展示風景 青野文昭 《戦う英雄たち-
SACRIFICE 2024》展示風景 是恒さくら 《双子鯨の夢を
見たら》

○弘前れんが倉庫美術館

4月6日（土）－9月1日（日）

「蜷川実花展 with EiM：^{はかな}くも^{きら}煌めく境界 Where Humanity Meets Nature」「弘前エクステンジ#06『^{しらかみのぞきみこう}白神覗見考』」

【参加作家】狩野哲郎、佐藤朋子、永沢碧衣、L PACK.



弘前れんが倉庫美術館 外観

展示風景 蜷川実花 《Sanctuary of
Blossoms》

展示風景 狩野哲郎 《魔術的な道》

○八戸市美術館

4月13日(土) - 9月1日(日)

「エンジョイ！アートファーム !!」

[参加作家] 磯島未来、漆畑幸男、しばやまいぬ、蜂屋雄士、東方悠平



八戸市美術館



展示風景 しばやまいぬ 《くにゆぎの森 3D》



イベント風景 《エンジョイ！パフォーマンスピクニック》

○十和田市現代美術館

4月13日(土) - 11月17日(日)

「野良になる」

[参加作家] 丹羽海子、墓原蓉子、アナイス・カレニン、永田康祐



十和田市現代美術館 外観



展示風景 (丹羽海子、墓原蓉子)



展示風景 アナイス・カレニン 《植物であったことはない》

○関連企画、公式グッズ、イベントの様子



オープニング・トークイベント (青森県立美術館)



[共通企画] イベント風景 《青森県庁ねぶた実行委員会囃子方 (青森県立美術館)



[共通企画] イベント風景 《い〜爺〜ず》 (十和田市現代美術館)



弘前れんが倉庫美術館 関連企画 L PACK. 《いっしょくたにへば たげめぐるはんで When you put them all together, it's a complete disaster.》



公式グッズ (八戸市美術館)



タイアップ企画 メゾン・ド・ミュゼ・デュ・モンド (東京・銀座)

【共通企画】栗林隆《元気炉》 「Aomori GENKI-RO Trip」

共通企画として、各館を巡回する栗林隆《元気炉》を展示しました。原子炉の形状をした構造物に薬草の香りを帯びた蒸気を発生させた《元気炉》を施設に合わせた形で展示。さらに「Aomori GENKI-RO Trip」と題して、音楽家の辰田翔と青森の各地域に伝わる郷土音楽からジャズ、クラシックなど地元で活動する奏者たちとのライブ演奏。また写真家で映像作家の志津野雷の映像作品を上映しました。



青森県立美術館 展示の様子



青森公立大学 国際芸術センター青森 展示の様子



八戸市美術館 展示の様子



十和田市現代美術館 展示の様子



弘前れんが倉庫美術館 展示の様子

【共通企画】ラーニングプログラム

- ▼小学校高学年（4-6年生）向け鑑賞ツール「GOKAN ファイルブック」配布
- ▼高校生向け「高校生サマープログラム」8月10日開催（青森県立美術館）

5館共通の「ラーニングプログラム」を導入しました。小学校高学年を対象とした5館共通の鑑賞ツール「GOKAN ファイルブック」を制作。あわせて青森県内の高校生を対象とした作品鑑賞プログラムを実施しました。永井玲衣さん（哲学研究者）をゲストに哲学対話のワークショップを行いました。鑑賞ツール「GOKAN ファイルブック」は、来館者への配布とあわせて、開催4市を中心に小学校（対象児童全員）に配布。今後、継続的に美術館を活用した鑑賞教育に取り組んでいきます。



鑑賞ツール「GOKAN ファイルブック」



「高校生サマープログラム」開催の様子

5館が五感を刺激する—AOMORI GOKAN 今後も青森アートの魅力を発信

2024年4月、青森公立大学 国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館では新館長が就任。引き続き各館の個性を打ち出しながら、青森アートの魅力を発信していきます。



左から 十和田市現代美術館 館長 鷺田めるろ
 八戸市美術館 館長 佐藤慎也
 青森県立美術館 館長 杉本康雄
 弘前れんが倉庫美術館 館長 木村絵理子
 青森公立大学 国際芸術センター青森 館長 服部浩之